

●アニマル・セラピーに関する市立大学と円山動物園の共同研究について

札幌市立大学と円山動物園は、共同でアニマル・セラピーに関する研究を始めました。

これは、同大のデザイン学部と看護学部の共同研究「地域にある動物園との触れ合いを活かす環境共生コミュニティの創出」(研究代表・酒井正幸デザイン学部教授)の一環で、精神障がい者に動物と触れ合ってもらい、人が動物と直接的・間接的に触れ合うことを通して得られる「アニマル・セラピー効果」について検証し、その活用について検討するものです。

現在、第1クールを終えたところですが、今後、さらに研究を進め、動物園におけるアニマル・セラピー機能の活用に向けて検討していきます。

1 概要

(1) 研究対象者

この研究に対して説明の上、同意を得られた精神病院デイケア（中央区）に通所している8人の精神障がい者

(2) 研究プログラム

円山動物園を訪問し、動物との触れ合いをはじめ、他の対象者やスタッフとの交流の様子を撮影・記録し、分析します。また、訪問の前後にはデイケア内で話し合いが行われます。

プログラムは「話し合い（計画）→動物園訪問（実践）→話し合い（感想）」とし、8月までに計3クール（1クール当たり約1カ月）を予定しています。

(3) アニマル・セラピーに期待される効果

精神障がい者には、コミュニケーションの苦手な人も少なくなく、自分たちが「見たい」「触れたい」と思う動物や場所を決めたり、動物園訪問で感じたことを表現したりすることが、生活訓練となることが期待されています。

また、これらはデイケア・プログラムの一環と位置付けられており、治療効果があると評価されています。

2 これまでの研究

現在、第1クールを終えたばかりですが、すでに、動物と触れ合う時の表情が穏やかになるなどの変化が見られているほか、「幼いチンパンジーの『レディ』のミルクタイムを見て、親子について考えた」「ウサギを抱くことで温かさが伝わった」などの感想が出ています。

3 今後の展開

アニマル・セラピーについては、今後、さらに研究を進め、動物園における活用に向けて検討していきます。

問い合わせ先

札幌市立大学アニマル・セラピー・ワーキング・グループ

研究代表 看護学部准教授 守村 洋

電話 726-2715